



全小中学校へエアコン

《3月定例会》

2月22日から3月19日までの26日間にわたって定例議会が開かれ、市長から提出された議案43件を審議し、いずれも原案のとおり同意・可決しました。

一般会計予算

30年度一般会計予算は、143億9,000万円で、前年度比6.1億円の減となりました。

《平成30年度の主な事業》

- ★生涯学習センターの開館
- ★まちなにぎわい創出プロジェクト
 - ◆白岡中学校周辺区域の土地利用推進
 - ◆都市計画道路の整備
 - ◆白岡駅東部中央土地区画整理事業推進
- ★地域活性化プロジェクト関連事業
 - ◆大山・葭莪地域活性化推進事業
 - ◆新白岡駅東側に公園を整備
 - ◆埼玉北地区基幹相談支援センター設置
- ★こども・ゆめ・みらいプロジェクト
 - ◆新たな民間保育所の整備支援
 - ◆小・中学校へのエアコン整備
 - ◆学童保育の充実



問 国や県の補助金を活用する事業の決定プロセスおよび全事業のうち活用した割合は。

答 事業効果・緊急性・負担区分のあり方を十分検討して事業の選択をしている。一方、重要性・緊急性が高い事業は、過不足のない国庫支出金・県支出金の活用にも努めている。30年度は、一般会計全事業のうち約19%活用している。

問 当市の30年度予算編成方針を見ると、社会保障関係経費の増加や生涯学習センター、都市計画道路の整備などで中長期的には多額の財政不足が見込まれるとある。市有財産の利活用などにも力点を置き、新たな財源の創出に努めるべきと考えるが、市の考えは。

答 市が保有する財産のうち、未利用地については、可能な限り売却や貸付など行ってきた。今後も、土地や建物の未利用資産については、民間への売却や貸付などさまざまな手法を講じて利活用を検討し、歳入の確保に努めていく。

問 市税・市債は30年度減少の見込みだが、市民税は増加である。一方で固定資産税が減少なのはなぜか。また、宮山団地は都市計画税の対象だが対象が増えるのになぜ減額か。

一方、市債で教育債が大きく減額である。「こもれびの森」関連の影響かと思われるが、29年度と比較して30年度の市債残額は減少している。市債残高は順調に減少していくのか。

答 30年度は3年に1度の評価替えの年度であり、家屋については在来家屋の経年による減価が大きく、償却資産でも減額となったため、固定資産税が減少した。市債については、今後、大規模な事業が控えているため、交付税措置など有利な財政措置が講じられている。

市債を選択するとともに、市債残高の適切な管理に努めていく。

問 財政調整基金繰入金の増額の理由は。

答 30年度当初予算の編成においては、小中学校のエアコンの整備や都市計画道路の整備などの事業により歳入歳出に乖離が生じ5億4,622万4千円を繰入せざるを得なかった。

